兼六園で体験するSDGs

緑の物語 ～緑のあるまちの魅力を兼六園で体感～ 【学習シート】

まちなかの緑は、気候変動の具体的な対策や、陸の豊かさを守ることにも通じ、
SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」に大きく貢献します。
江戸時代からその役割を担ってきた兼六園で、都市緑化の大切さを考えてみましょう。

兼六園にはいろいろな種類の植物があり、そこに集まる昆虫や野鳥も豊富です。豊かな自然の中に身を置くと人はリラックスでき、身近にそのような環境があることは健康増進にも重要。しかも、その環境がもたらしてくれる効果はそれだけではありません。

［問①］　都会に多様性に富んだ生きものが生息する環境を作ることが、住み続けられるまちにどうして必要なのか？　考えてみましょう。

江戸時代に作られ始めた兼六園。当初は加賀藩主のプライベートな庭でしたが、明治時代に入って一般公開されるようになりました。兼六園に豊かな自然があるのは歴史があるからだけではありません。

［問②］　兼六園の緑地が一般的な都市公園と異なっている点を探し、挙げてみましょう。

自然環境が持つ機能を活用して、くらしの質を向上させたり、防災・減災に役立たせたりするのが「グリーンインフラ」。日本庭園にはグリーンインフラに通じる機能がいろいろあります。

［問③］　兼六園の緑が防災・減災にどのように役立っているか？ 考えてみましょう。

ポイント◉都市の公園緑地というと、大気浄化やレクリエーションといった効果が注目されますが、都市の生物多様性を保全し、災害防止や文化の多様性にも貢献していることを知ることで、都市緑化の大切さをより深く理解できます。

兼六園で体験するSDGs

緑の物語 ～緑のあるまちの魅力を兼六園で体感～ 【学習シート】事後学習

園内をめぐり、緑の魅力やもたらしてくれる機能を学んだら、
身近な緑を見つめ直し、緑に関する課題を考えてみましょう。

まちなかの緑がどうしてSDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」に貢献するか、兼六園で学んだことを生かして、自分が住むところでも考えてみましょう。

［問］　兼六園を訪ねる前に学習したことや、現地で経験できたことをもとに、自分が住んでいるまちで緑や自然環境がまちづくりに生かされている事例を探し、また、緑や自然の力で解決できそうな今ある課題を具体的に挙げてみましょう。

ポイント◉SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」の達成のため、日本庭園のような緑豊かな空間が重要だということを学んだら、その緑を守り、増やしていく方法も考えてみましょう。